

公表日：令和4年8月2日

事業所名：after school willbe

区分	チェック項目	現状評価(状況説明・工夫点等)	評価者の評価	保護者の評価と確認された改善項目・内容
環境・体制整備	1 利用定員に応じた指導員室等スペースの十分な確保	備品はほとんど種類可能なものを使用し、広さも十分に確保されている	はい100%	十分な確保ができているため現状を維持していく
	2 職員の適切な配置	基準を満たしたうえで指導員の数を多く配置している	はい93.75% わからぬ14.25%	児童の人数が増えてきている為、更なる人員配置を心がけていく
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など指導の特性に応じた設備整備	バーチャルや物品なども子どもの特性や安全を考慮し、種類可能なものを使用	はい100%	今後も十分に考慮し、更により良い設備整備を行っていく
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた清潔空間の確保	掃除・消毒を毎日2回以上行っている	はい100%	十分に配慮ができているため現状を維持していく
業務改善	1 業務改善を進めるためのPOCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	行合せなどを行い、定期的に改善している		今後も常にカンファレンスを取り入れ周知していく
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	コロナ感染拡大の為、感染対策に十分注意して行う		実地指導も受け、改善を図り、今後も積極的に行う
	3 職員の資力の向上を行うための研修機会の確保	月一回研修を行っている		月一回研修を行っている為、現状を維持する
適切な支援の提供	1 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	保護者様と面談を行い、個別に話す機会を設けている	はい93.75% どちらともいえない14.25%	現時点での保護者からの回答を踏まえ十分に満足しているが、今後もニーズや課題の理解を深め計画書を作成していく
	2 子ども達の状況に応じ、かつ個別活動と集団活動とを適宜組み合わせ合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	子どもひとりひとりに合わせた支援内容を考えるように心がけている	はい93.75% どちらともいえない14.25%	現時点での保護者からの回答を踏まえ十分に満足しているが、今後も計画書を作成していく
	3 計画における子どもの支援に必要な自己決定及び具体的な支援内容の記載	子どもひとりひとりに合わせた支援内容を考えるように心がけている	はい100%	現時点での保護者からの回答を踏まえ十分に満足しているが、今後も計画を立てるよう心がけていく
	4 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	定期的に計画書を確認し、全職員に周知するよう努めている	はい100%	支援の実地状況(お子様の様子など)更に細かく保護者の方に伝えていく
適切な支援の提供(続き)	5 チーム全体での活動プログラムの立案	教室内にリクエストボックスを配置し、職員だけでなく児童自ら案を出せるような環境作りを配慮し、毎月実施するプログラムを考案している		視野を広げ、今後も様々なプログラムを取り入れていく
	6 平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	送迎時間・場所などでできるだけ保護者様の希望に添えるよう調整している		現状を維持し、希望に添えるように調整していく
	7 活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	同じ内容にならないよう教科ごとのプログラムを考案し、学習刺激を取り入れながら実践する曜日にも取り入れるよう予定表を作成するなど工夫している	はい100%	今後も週1回の通所でも年間に全ての教科(10教科)を履修できるように配慮し、児童が楽しく安全に活動に参加できるように努める
	8 支援開始前における職員間での日々の支援内容や役割分担についての確認の徹底	事前に打ち合わせを行い役割分担についての確認を行っている		事前準備を行い、今後も時間外余裕をもって活動の準備に努めていく
	9 支援終了後における職員間での日行われた支援の振り返りと気づいた点などの情報の共有	毎日、職員同士での感想・意見交換の時間を確保し、情報共有を行っている		今後もカンファレンスやミーティング以外にも意見交換できる時間の確保に努め、現状を維持していく
	10 日々の支援に關しての正確な記録の確保や、支援の検証・改善の継続実施	毎日、都度行っているが、記録の仕方など更に周知していく必要がある		複数の職員で再確認を行っていく
	11 定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	半年に一回必ずモニタリングを行い計画の見直しをしている		半年では児童の成長や環境などの変化も考えられるため、その児童に合った見直しを行うしていく
	12 子ども達の状況に精通した最もさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議への参画	コロナ感染拡大予防のため電話やリモートを活用し、意見交換・報告・計画の見直しを行って行く		今後も感染状況に合わせて積極的に参加していく
	13 (困難ケアが必要な子どもや課題の多岐にわたる子ども等)を支援している場合)	該当なし		該当なし
	14 (困難ケアが必要な子どもや課題の多岐にわたる子ども等)を支援している場合)	該当なし		該当なし
	15 児童発達支援事業所からの内連な移行支援のため、保育所(認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小・中・高))等との支援内容等の十分な情報共有	児童の様子やその児童の特性を迷道の際などに確認を行っている		今後も定期的な情報共有を行っていく
関係機関との連携	1 放課後等デイサービスからの内連な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれぞれの支援内容等についての十分な情報提供	連携制の学校案内や支援施設などへの紹介ができる環境づくりが実施されている		今後も積極的に他サービス事業所との関わりを広げ、将来を見据えた支援が行えるよう今後も十分な情報提供を行っていく
	2 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	コロナ感染予防に十分配慮し、職員一人ひとりに研修への参加を促すよう努めた		今後も感染対策に配慮してできる限り積極的に研修への参加を行っていく
	3 児童発達支援の障害の専門家や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービス等の施設連携やケアや児童福祉の交流など、障害のない子どもも活動する機会を確保	コロナ感染を考慮し、児童館などの交流の機会は見送ったが、海の子どもへの事件対応など、児童の発達の機会を確保し、児童の発達の機会を確保するよう努めた	はい75% どちらともいえない12.5% わからぬ12.5%	今後もコロナの感染状況に合わせて積極的に機会を作っていく
	4 児童発達支援事業所からの内連な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれぞれの支援内容等についての十分な情報提供	コロナ感染を考慮し、児童館に招待する機会を保護者共の意向やニーズの理解が乏しいことを踏まえ、地域のクレーンアップ、地域の商業施設などへの挨拶訪問の機会をとり、児童の発達の機会を確保し実施するよう努めた		今後もコロナの感染状況に合わせて積極的に機会を作っていく
	5 支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	契約の際に必ず保護者へ説明を行い、請求書・領収書など細かく伝えるよう努めた	はい100%	今後も特に金額が関係してくる場合は、丁寧かつ慎重に説明していくよう努める
	6 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	個別相談時(個別面談)において、アセスメント結果も踏まえ、計画書の内容をわかりやすく説明し、保護者からの質問や不安な点など、必要に応じて丁寧に説明するよう努めた	はい93.75% どちらともいえない14.25%	現状を維持し今後も児童の様子など細かく伝え、職員の言葉や伝え方の指導を行っていく
	7 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレントトレーニング等の支援の実施	コロナ感染予防に配慮し、相談支援を行い、子どもの特性など相互理解を促した	はい81.25% どちらともいえない12.5% わからぬ6.25%	感染拡大により、面談の時間などが短く十分な個別相談が実施できずの面談を実施するよう努めた。また、現時点での保護者からの回答を踏まえ今後も支援が実施できるように努めていく
	8 子どもの発達の状態や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	保護者の方の意見、家庭の様子、また教室での様子の情報共有をしている	はい93.75% どちらともいえない14.25%	今後も教室での様子などを伝えたり、またアセスメントを行い共通理解を行っていく
保護者への説明	1 保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要不可欠の実施	コロナ感染予防を考慮し、必要最低限の面談を行った	はい87.5% どちらともいえない12.5%	感染拡大により、面談の時間などが短く十分な個別相談の実施が難しくなることを踏まえ、現時点での保護者からの回答を踏まえ今後も支援が実施できるように努めていく
	2 父母の会等の活動の支援や、保護者同士の関係づくりによる保護者同士の連携支援	保護者会を開催したものの、職員の経験不足から保護者同士がスムーズに交流できるような十分な内容提供はできなかった	はい87.5% どちらともいえない14.25%	今後、今以上に交流の機会を増やし、職員の経験不足から保護者同士の関係づくりによる保護者同士の連携を促すよう努める
	3 子どもや保護者からの苦情に対する適切な対応	保護者からの意見は素直に受け止め、全職員で共有し、迅速な対応と改善に努めた	はい100%	今後も意見が寄せられなかったかの確認の徹底を行い、改善を図っていく。また、定期的な研修で対応方法の周知を行っていく
	4 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	保護者とのコミュニケーションを心がけ、話しやすい環境づくりに努めた	はい100%	今後も保護者様との信頼関係を更に築いていく
連携支援	1 定期的な会議等の発行、活動概要や行事予定、業務体制等の情報についての子どもや保護者への発信	予定外だけでなく、外出先をピックアップしたもののや活動内容をわかりやすくするもののチラシやポスターなどを毎月個別で配布するよう努めた	はい93.75% わからぬ14.25%	今後定期的な研修し、新たなメンバーのウラワラへの管理に注ぎ、情報共有や関係の構築に努め、今後も定期的な研修や関係の構築に努める
	2 個人情報の取扱いに対する十分な対応	契約の際に必ず保護者へ説明を行い、事業所内での保管にも徹底を行うよう努めている	はい100%	今後も定期的な研修し、新たなメンバーのウラワラへの管理に注ぎ、情報共有や関係の構築に努め、今後も定期的な研修や関係の構築に努める
	3 緊急時対応マニュアル、防災マニュアル、感染対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	契約時や面談時に説明が足りず、どの部分に注意するかなど、確認を促していることがアンケートを行なった	はい93.75% わからぬ14.25%	保護者様への再説明、お便りなど積極的に発信し周知徹底を目指す
	4 非常災害の発生に備え、定期的な避難、救出その他必要な訓練の実施	避難訓練・防災学習などプログラムを通し行っているが、プログラムへ参加できない児童へ訓練を実施できるように今後も機会を増やす必要がある	はい81.25% どちらともいえない12.5% わからぬ6.25%	今後の訓練への参加を促し、改めて実地状況を確認する方へお知らせし周知徹底を行っていく
	5 虐待を防止するための職員研修等の確保や適切な対応	虐待防止委員会を設置し、全職員に年一回以上必ず研修を行っている		今後も年に一回の研修を含め、新しい職員の増員も都度個別研修を行うなど、定期的に研修を行っていく
	6 やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・理解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	現状該当する事例はないが、必要性が生じた場合は事前に保護者に説明・確認を行い、全職員での情報共有と個別計画書への記載・作成を行い、児童の身体への安全性を考慮した対応方法を慎重に考案し、実施に努める		現状はないが、やむを得ない場合を想定した対応を実施し、事前に職員の知識や対応方法など個別の対応力を高めよう努める
	7 食費アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づいた適切な対応	現時点では該当する児童が通所しておりず事例はないが、従来職員間にも取り分けを行い、適切な対応の指導を受け、安全な食費づくりを努める		いつでも対応できるように、今後も職員研修で取り上げ、アレルギーについての理解を深めよう努める
	8 ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	日々の日報に記載を行い、重要日報に必ず確認し、全職員で情報共有を行っている		今後も活動時には日報すべてに目を通し、情報共有しておくよう職員に周知していく